



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHIKI 3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題 「信念、愛、行動」
アジア会長主題 「信念と愛を持って行動しよう」
東日本区理事主題 「ワイズのらしさ再発見」
あずさ部部長主題 「垣根を低くし、活発な活動を」
東京西クラブ会長主題 「居心地の良いクラブでワイズライフを楽しもう」

2026 年 2 月号

NO 593

父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。
わたしの愛にとどまりなさい。

新約聖書ヨハネによる福音書15章9節

2月強調月間の実を挙げよう

神谷 幸男

世界のあちらこちらで発生している災害や武力紛争で、怪我や病気に罹り医療を受けるべき人が多発している。この人たちを治療支援する人たち、団体も世界には沢山あるので頼もしい限りである。最近、これら支援団体の活動資金が不足していて支援活動が思うに任せないとの悲鳴が聞こえてきた。金持ち大国の資金出し惜しみも資金不足を加速させたとか。

東日本区の2月の月間強調テーマは TOF、FF、HTW である。私たちは例会での食事を抜いて、あるいは節約して、通常の経費の差額を国際協会に献金してきましたし、献金の仕方的一端を学んできました。

今、医療支援ばかりでなく衣食住や生活環境、教育の面でさら

なる支援を要する事態の多くあること知らされている。その具体的な支援内容・要請支援額等に関しては、関係団体の要請文、活動報告書等で知らされている。

いずれの分野にあっても支援すべき事業・その実行のための資金の欠乏は深刻で、様々な手段で広く資金提供の要請がなされている。

東日本区でも2月強調月間を通してその実情を深く理解すると共に必然的に求められる資金支援・寄付文化の高揚が求められているものと思われる。

TOF 運動は寄付文化高揚でもあり、この運動の一面は募金高揚運動でもあります。私たちも2月例会にあっては特に食事代の一部を献金・募金に当てて2月強調月間の実を挙げましょう。

不登校児に係る課題

ある市民団体の広報誌に、「学びの多様化学校」が2028年度に開設される、との記事がふと眼に止まった。「学びの多様化学校」とは何だろうと思い短い記事であったので読んでみた。具体的開設はなかったが、「不登校の子どもたちの選択肢が増え、将来への道が開けることに期待します」と結ばれていた。

今まで、社会的にも大きな課題となっているにも拘わらず余り関心をもっていなかったので、不登校児対応プロジェクト委員会の発足も不覚にも記憶に留まっていなかったし、ワイズナイトフォーラムも承知していたが参加はしなかった。社会的課題への視野を拡げ不登校児に係る諸課題についても学習から始めなければならないと思っている。

(神谷幸男)

クラブ役員

会長 神谷 幸男
副会長 本川 悦子
書記 村野 繁
会計 篠原 文恵
担当主事 波々壁 賢

1 月の 記 録

在 籍 者 数	11人	武蔵野多摩	4人	ニ コ ニ コ	0 円
出 席 者 数	8人	た ん ぽ ぽ	3人	クラブファンド	0 円
メーキャップ	2人	ビ ジ タ ー	一人	ファンド残高	44,715 円
出 席 率	100%	ゲ ス ト	一人	ホテ校ファンド	1,440 円
ZOOM 参加	一人	出席者合計	19人	ホテ校残高	26,056 円

2月合同例会のご案内

強調テーマ：TOF、FF、HTW

受付：篠原 服部

司会：石井 元子

まだ冷たさを覚える風にのって梅花のかおりが運ばれてくる季節が早ややって来ました。2月例会は恒例のTOFの実践例会。粗食を楽しんで献金を！

FF、HTW（世界を癒そう）と並んで献金意識の高揚の月。

「ホテル学校から見る今の世代の学生たち」と題して波々壁賢さんのお話を伺います。若い学生の心意気を学びましょう。

日時：2月19日(木) 18:30～20:30

会場：東京YMCA山手センター 303号室

会費：1,500円

HAPPY BIRTHDAY

8日 高嶋美知子

開会点鐘

聖書朗読・祈祷

いざ立て斉唱

会長挨拶

ゲスト・ビジター紹介

会食

卓話

ハッピーバースデー

ワイズ報告

YMCA 報告

ニコニコ

閉会点鐘

村野 絢子

一 同

神谷 幸男

3クラブ会長

東京YMCA国際ホテル専門学校

学生指導室長 波々壁賢さん

3クラブ会長

各 担 当

各 担 当

一 同

東京たんぽぽクラブ会長

藤江喜美子

ー1月事務会報告ー

日時：1月22日(木)

16:40～17:55

会場：阿佐谷地域区民センター
第8集会室出席者：石井、神谷、河原崎、
篠原、本川、

<報告事項>

◆1月3クラブ合同例会（在京新年会）の報告

◆会計報告、承認

<協議事項>

◆2月号ブリテン企画（原稿執筆
者・依頼）：別紙の通り確認

◆創立50周年記念行事について：

◇記念集会：会場69人部屋を予約する。その他、継続審議の予定。

◇記念誌発行の場合は印刷製本の発注を武蔵野多摩クラブの渡辺大輔さんに助力していただくことになった。

発行日5月14日・その他：継続審議。40周年記念に発行したWHOコース集と2025年1月に発行した追加コース集をまとめる予定。引き続き版下を探す。

◆2026-2027年度以降の3クラブ体制について：

*予備打合せ会開催

1月10日(土)17:30～45、
渡辺大輔・山口直樹・小原史奈子・神谷幸男の4人が話し合い、全員が参加できるZOOM形式で会合を持つことを決定。いずれも19:00に会合予定。
ただし1回目は連絡が遅れ、当クラブからは神谷会長のみが参加。・第2回2月11日(水・祝)
当クラブから神谷、本川、篠原の3人が参加

・第3回2月24日(火)

<https://us06web.zoom.us/j/83314578578?pwd=Wmw98i4jbwlGdCHhEkype3iASCgx6n.1>ミーティングID: 833 1457 8578
パスコード: 856442

・第4回3月11日(水)

<https://us06web.zoom.us/j/84454229279?pwd=kf6Vcx6wXkUEPoh3lkJqi5Ke8NeDRa.1>

ミーティングID: 844 5422 9279

パスコード: 384740

<行事案内>

配布資料参照：参加者の確認は次回に行う

(書記代理・神谷幸男)

会計からのお願い

後期分の会費を例会に持参か、振込でお願い致します。

振込先

みずほ銀行方南町支店

普通口座 8027928

東京西ワイズメンズクラブ





在京新年会(1月合同例会)

2026年1月10日(土)、東陽町ホールで在京新年会が開催された。第1部オープニングセレモ

ニーは、東京YMCA 高等学院トーンチャイム部の生徒による演奏、第2部は開会点鐘、ワイズソング、聖書朗読・祈祷のあと、ホ

ストの東京武蔵野多摩クラブ・渡辺会長の歓迎のことば、星野東京YMCA 総主事の祝辞がありました。第3部は机を寄せて「ユースと話す、ワイズを語る」と題し、グループに分かれそれぞれの立場からの意見交換の時を持ち、第4部の懇親会では、山下東日本区理事の「乾杯」発声で開始、ケータリングのご馳走を手に新年の交歓、参加各クラブの紹介、アピールタイムで盛り上がり閉会点鐘が鳴りました。現在の3クラブ合同のメンバーで運営のお手伝いをする事になり、全てに参加できず残念でしたが、翌日東京多摩スマイルクラブから沢山の記念写真が届き、盛会の様子を見ることができました。(篠原文恵)

自国のプロパガンダ教育に苦悩するロシア人教師の姿

日本では「NHK・BS1ー世界のドキュメンタリー」で、2026年1月13・14日に『名もなき反逆者ロシア 愛国教育の現場で』『前編ー追い込まれる教員たち、後編ー“軍事化”する学校』に分割されて初放送された。

* * *

ウラル山脈の小さな鉱山町にあるカラバシュの小学校で学校行事の運営・ビデオ記録担当の教員パシャ・タランキンによって2年間にわたって撮影された。

パシャが本格的に活動の記録を開始したのは、2022年のロシアのウクライナ侵攻後、政府が学校に対して定期的に「愛国的な展示」を行い、侵攻の正当化のために国が作成したカリキュラムの使用を義務付け始めた頃からであった。同時に政府はこれらの映像を国営ポータルにアップロードすることを義務付けて遵守を証明させた。

これにより、パシャは疑惑を持たれることなく、会議や授業、学校への訪問者を撮影することが

できた。当初、彼はロシア政府への支援を避けるために辞職するつもりであったが、発表の機会を得るために撮影を続け2024年夏に西側の支援を受けて秘密裏にロシアから脱出した。

平穏な子どもたちの学舎に軍靴の響きが聞こえ始める光景は後編には直接は映されていないのだが、それでも、独裁者(独裁制)の恐ろしさ、「愛国者」たる教育者の異様な佇まい、傭兵(ワグネル)達が子どもたちに「教育」する光景のおぞましきなど、筆舌に尽くし難かった。(Wikipediaより)

* * *

最初は、耳慣れない「特別軍事作戦」「非軍事化と反ナチ化」という言葉を使うことに戸惑う教師や、軍隊式の行進の練習をしていても、パシャの部屋に集まる子どもたちは無邪気で自国の戦争を実感できずにいる表情を淡々と映し出していた。

彼の母親は「この国は昔から戦争が好きなの」と言っていたが、次第に言葉少なになっていく。

「ワグネル」が教室で地雷の説明をする中盤ごろから、身近に予

備役の徴兵対象になる卒業生たちが出てくると、生徒も不安を隠せない表情になってくる。最初は無関心だった少女が、兄の入隊から戦死にいたる現実遭遇する。教え子や友人達が戦死者となる。

亡命を翌日に決めて出席した卒業式の挨拶で、万感の思いを込めて別れの言葉を述べたパシャの部屋を訪れる生徒はもう誰も居なかった。

ただ、国の方針通りに自国の擁護やヨーロッパの困窮を伝えて洗脳教育に熱心な歴史の教師が涙を見せたことが印象的だったが、心の内を推し量ることはできない。純真な生徒たちが静かに戦争を受け入れて行くのを見ると洗脳教育の恐ろしさにおののく。

東部ウクライナから連れ去られた子どもたちが、たとえ家族のもとに帰って来ても、開戦から5年を経た今、以前のような親子関係に戻ることは非常に難しいことだろう。

平和な時代を過ごしてきた私の世代でも、太平洋戦争の前に同様な教育を受ければ軍国少女、少年になっていただろう。

(篠原文恵)

実感 84歳の今**村野 絢子**

昨年9月で、夫は88歳になり、12月に私は84歳になった。

同じ敷地に住む義弟は私と同じ歳だが、2年前に82歳で御許に召された。彼から譲られた2本のスティックで私は元気に歩いている。

とは言え私の左目は緑内障で見えず、耳は右耳がほとんど聞こえない、更に子供の頃、2年間四日市石油コンビナートと国道沿にあった社宅に住んでいたためアレルギー体質となっていたが、何十年振りかで喘息が発症しそうになり、医師から早朝散歩は寒い間止める様に言われ、每晚吸

入もしている。

骨折を恐れ、骨密度を上げる注射をすすめられ、週1回2年間104回の注射が1月で終わり、半年毎に骨密度が上がり若者の8割、同年齢では平均以上となっている。病院のカードはなんと10枚、朝の投薬も10粒を超える。

教会と医者通いの他は買い物と家の台所で食事作りだ。娘たちがバター、チョコレート、ナッツ等の材料をせっせと持ってくるので、菓子、ジャム等作るのが楽しんでいる。今までさっとできていたことに時間がかかる。

家の者が居ないある日、葉山の息子の処にTELし在宅を確かめ、急に海を見たくなり、渋谷から1時間、逗子駅で車に乗り一色海岸

に向かった。彼ら夫婦と私3人で冬の海を眺めて過ごした。これだけの事で気分転換になった。

次は横浜の友人を誘って海を眺めに行こう。

近くに菜園を借りている隣家から立派な葉付きの大根をいただいた。さて何と何に使おうか楽しみだ。

**YMCA Today**

■国際ホテル専門学校の2年生は大半の授業が選択科目です。その中には様々な資格取得対策講座を行っております。国家資格であるレストランサービス技能検定は11人の合格が12月に発表されました。国家資格ブライダルコーディネーター技能検定試験は1月に17人が受験し、ワインコーディネーターや日本酒の唎酒師の資格は2月の試験に向け10人が勉強中です。

1年生は全員が1月までホテル実習中。そして2月から始まる就職活動に備えて、2月初旬からコツと心構えを育てるセミナーを行います。

既に60社の学内企業説明会が決定し、2月中から採用面接もスタートする見込みです。例年と比較し各社採用活動の早期化を感じますが、希望就職が果たせるよう一人ひとりをしっかりサポートしていきます。

■12月20日、日本YMCA同盟主催、東京YMCAと日本児童青少年演劇協会ご協力のもと、日本在住ウクライナ避難民対象のクリスマス会を山手センターで開

催し、ウクライナと日本の親子約90人が来場されました。人形劇団MあんどBによるウクライナ民話などを鑑賞した他、レクリエーションを通してウクライナと日本の子どもたちが交流しています。

■会員部よりご協力をお願いしていた「クリスマス募金」は、個人523人、企業・団体11法人、総額1,923,010円のご支援をいただきました。(12月末現在)。ユースボランティアリーダー養成募金、国際協力募金、ウクライナ支援などのために用いる予定です。

■「Amazon みんなでサンタクロースプログラム」(Amazonの「ほしいものリスト」を使って公益団体等に物品を寄贈するプロジェクト)を通して、1月20日現在5人の方から、外国にルーツのある子どもたちの日本語サポートプログラム、及び特別支援学校での活動のために物品のご寄贈をいただきました。

担当主事 波々壁 賢

編集後記

今月号こそはとの意気込みも諸般の事情に阻まれて発行が遅れ、特に早々とお寄せくださった皆さまにご迷惑をおかけし申し訳ありません。

TV番組の視聴感想を寄稿してくださった篠原さんに感謝します。

何事にもしっかりとした眼をワイズリーに持ちたいものです。

(SK)

